

3858 ユビキタス

佐野 勝大 (サノ マサヒロ)

株式会社ユビキタス社長

当期業績は回復基調、今期はIoTとセキュリティに注力

◆2016年3月期業績の概要

2016年3月期の売上高は9億70百万円(前期比9.5%増)、営業損失1億9百万円、当期純損失は2億2百万円となった。また、当期は有形固定資産等の減損および投資有価証券の評価損による特別損失を計上した。結果、経常損失以上に純損失を生じた。

当社のセグメントは、コネクティビティ事業と組込みソフトウェア事業であるが、コネクティビティ事業に関しては、当社の注力市場であるスマートホーム・エネルギー関連、および車載機器を中心に売上を計上している。組込みソフトウェア事業の高速起動分野では、カーナビゲーションシステムを主力とした車載機器向けの出荷が好調を維持しており、ロイヤルティを計上している。データベース分野については、既存の顧客を中心にロイヤルティを獲得し、売上は安定している。

当期の業績予想は、期初予想11億50百万円を2月12日に9億40百万円に下方修正した。その要因は業務提携に基づく案件の成立の遅れおよび失注、既存案件の期ずれ、新規受託開発案件の計画未達、M&A 案件の成立時期の遅れ等である。実績としては、既存顧客からのロイヤルティが想定以上となり上積みされた。修正後予想より30百万円ほど上振れ9億70百万円に着地した。当期純損失は特別損失の計上により予想を下回った。

過去5年間の売上高と営業損益の推移を見ると、2012年3月～2013年3月期の主力顧客はゲーム、デジタルAV機器関連だったが、その後市場が変化し、現在は自動車関連、エネルギー関連となっている。2014年3月期はちょうどその境目であり苦しい時期であったが、2015年3月期、当期と売上は上向き、業績も回復基調である。

当期の市場別売上構成比は、車載機器 37%、スマートホーム・スマートエネルギー31%と、合わせて68%を占めている。この分野はこの3年で急成長し、この先も国内外で安定した売上を見込んでいる。

セグメントおよび製品分野別売上高は、コネクティビティ事業に関しては、組込みネットワーク分野が4億10百万円(前期比17.1%増)となった。サービス&ソリューション分野も1億90百万円(同18.9%増)あり、コネクティビティ事業全体の売上は合計6億円(同89百万円増)となった。しかし、セグメント利益としては1億75百万円(前期2億88百万円)と損失は減少しているものの依然として投資が先行しており、特にIoT関連のクラウドに対する開発投資が売上を上回っている。

一方、組込みソフトウェア事業のデータベース分野は1億23百万円(前期比45.5%減)だった。これは前期に複数年一括前払い収入があったためで、当期は従来顧客のロイヤルティを中心に予想より若干上回った。高速起動分野については、2億46百万円(同65.5%増)で、ここ数年続いた車載向けの既存顧客への出荷がピークを迎えたためである。長年の投資がようやくライセンス収入につながった形である。組込みソフトウェア事業全体では合計3億70百万円となり、セグメント利益は66百万円と安定した利益を出している。

売上高を形態別にすると、当社のビジネスモデルの中心である当社ソフトウェアが搭載された顧客製品の出荷数に応じた使用許諾料(ロイヤルティ)は、SDK(ソフトウェア開発キット)の利用料と合わせて5億46百万円(前期比3.8%増)となり、安定して推移している。当社の技術や製品を採用して新商品を開発する受託開発は3億39百

万円(同 16.5%増)で、将来のロイヤルティ収益にもつながっている。

貸借対照表(資産の部)では、流動資産が、29 億 21 百万円(前期比 11 億 65 百万円増)となっているが、これは営業損失により現金および預金が減少したため、メリルリンチ日本証券(株)に付与した新株予約権の行使により、13 億 76 百万円の資金調達を実現した。有価証券 11 億 99 百万円(同 7 億 99 百万円増)は、現金および預金の一部を短期の安全性の高い金融商品にて資産運用している。

当期が赤字決算のため、固定資産のうち有形固定資産(建物等)の減損処理を行い、期末では残高なしとなった。

純資産は、調達資金がそのまま資本金および資本剰余金となっており、また、純損失の分利益剰余金が減少した。

◆セグメントおよび分野別動向

コネクティビティ事業組込みネットワーク分野については、ここ数年注力しているエネルギー関連の案件が活発に動いた。「Ubiquitous ECHONET Lite」「Ubiquitous Wi-SMART」「Ubiquitous Network Framework」等受託開発の売上を計上した。

車載機器向けには「Ubiquitous DTCP」というセキュリティ製品の受託開発とロイヤルティを計上している。

既存顧客のデジタルカメラ、デジタル AV 家電の受託開発、ロイヤルティも計上した。

新製品として「Ubiquitous Securus」を発売した。

サービス&ソリューション分野でも、4 月から始まった電力小売事業者向けの HEMS(Home Energy Management System)、エネルギーの「見える化」機器開発案件での受託開発、契約一時金、ロイヤルティの売上を計上した。

この分野では、他企業との協業が活発である。まず、電気小売業に新規参入した楽天(株)とエネルギー関連サービスにおける業務提携の基本合意をし、クラウドで提供する企業向けプラットフォームを共同開発する。セキュリティの分野ではトレンドマイクロ(株)と IoT 向けのセキュリティソリューションの共同開発を発表した。(株)セールスフォース・ドットコムとは IoT ソリューション「SalesForce Platform」との連携、マゼランシステムズジャパン(株)とは 2018 年本格運用を控えている準天頂衛星による高精度位置測位ソリューションにクラウドを活用することで、出資を含めた業務提携をすることで合意した。

組込みソフトウェア事業のデータベース分野は、既存顧客に当社の資産を安定して使用してもらうこと、また新しい使い方を提案しながら市場開拓していくという拡販が中心である。産業機器、OA 機器、車載機器関係の既存顧客からロイヤルティを獲得している。新規では、ティアック(株)のハイレゾ対応ポータブルヘッドホンアンプ/プレイヤー(HA-P90 SD)に組込みデータベース製品「Ubiquitous Device SQL」が採用された。

高速起動分野は、依然として車載機器周辺の引き合いが強く続いており、既存顧客への出荷が堅調に伸びている上、次世代の商品に採用が決定され、幾つかの案件が製品化に向けて開発されている。車載機器は開発から出荷開始まで約 3 年かかるが、当期は既存顧客である自動車メーカーへの出荷がピークを迎えたことから収益に大きく貢献した。また当期は海外からの引き合いも増え、今期より出荷が始まる。1 月に累計 700 万本突破し、期末の段階では 800 万本に迫る勢いである。今期の早い段階で 1,000 万本を超えると予想している。

◆2017 年 3 月期の業績予想と重点取り組み

今期は中期経営計画の最終年度に当たり、連結売上目標は計画当初 15 億円だった。今期目標はこれを少し超える 15 億 20 百万円(前期比 5 億 50 百万円増)とした。一方、利益については、成長投資を継続させることと M&A を実施した株式会社エイムののれん償却費を合わせ、1 億円弱の損失が出ると予想している。赤字が続いている中、収益ベースに戻すため、のれん償却前の連結営業利益が 20 百万円の黒字になることを目指す。本格的に収益が改善するのは来期以降になる。

ユビキタス単体の売上目標としては、11 億円(前期比 13.4%増)を目指す。これについてもIoT 関連の投資が当分続き、成長投資としての人件費の増加で今期は損失を伴うと予想している。

事業ごとの売上目標内訳はユビキタスの主力事業であるコネクティビティ事業で 6 億 80 百万円(前期比 13.3%増)、組込みソフトウェア事業で 4 億 20 万円、合計で 11 億円である。エイムは 4 億 20 百万円の目標を設定し、合計で 15 億 20 百万円を目指す。

コネクティビティ事業の重点取り組みとして、IoT のクラウドのプラットフォームを推進しながらセキュアな環境を普及したい。そのためには特定の分野に強みを持つパートナーとの協業によってソリューションやパッケージを提案していく。また、来年 4 月のガス市場自由化に伴いシステム化・ネットワーク化の案件が活発になっている。当社は電力での実績に基づいてソリューションを提供する。

車載機器関連もセキュリティに関心が高まっており、Securus、HDCP、DTCP、TPM のソリューションを拡販する。

IoT 関連は IoT スターターキットの発売等、入り口で顧客を獲得できる展開をしていく。

組込みソフトウェア事業は引き続き好調であり、既存顧客の継続と横展開に注力する。また、グローバル市場は高速起動に関心があり、車載機器のみならず、コンシューマー製品についても販路を広げる。

4 月 1 日に(株)エイムを 100%子会社化した。エイムは 1987 年創業で、安定した顧客からの開発受託があり、当社とは 2009 年から組込みソフトウェアの開発受託を中心にパートナーシップを継続してきた。また、エイムは楽曲やアーティスト情報をメタ情報として持つ技術があり、世界的なシェアを持つ Gracenote, Inc.のビジネスパートナーでもある。楽曲、アーティストのフリガナを付与する技術とライセンスを持ち、日本市場において車載機器向けの案件を受託している。当社の持つネットワーク製品等とあわせて、シナジー効果を期待している。

4 月 20 日には、IoT 開発キットを発表した。IoT やクラウドを評価したいという案件が増えてきたため、専門知識がなくともすぐにクラウドと連携した IoT をスタートできる評価キットを開発した。このキットを入り口として本番システムにつなぐ率を上げていきたい。

5 月 9 日には「Ubiquitous TPM Security」を発表した。コンピュータの信頼性と安全性を高める国際業界標準規格の TPM(Trusted Platform Module)向けソフトウェアを IoT/組込みシステム向けに製品化した。5 月 20 日に発売開始である。

(平成 28 年 5 月 13 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

http://www.ubiquitous.co.jp/ir/library_4.html